

学校点描

続

熱中症が心配された中、地区総体前期大会が行われました。今は天気が良いほど心配になる時代です。

《M中学校》

NO.6

R6. 6. 19

担当：校長

6月10日（月）は、県埋蔵文化財センターからお二人の指導者をお招きして、1学年の社会科の出前授業を行っていただきました。『小国川流域における縄文時代の生活の痕跡』をテーマに、土器に触れたり、石器で段ボールを切ったりと体験を通して、縄文時代の暮らしをイメージしました。

6月13日（木）は授業参観の後、体育館にて地区総体の壮行式を行いました。およそ100名以上の保護者の方と教育長さんが参加してくださいました。各部の部長の話はこれまで以上にとても素晴らしいものがありました。また企画した生徒会代表のK・Tさんの挨拶では、部活動地域移行などで練習環境が変わった中でも挑戦してきた姿を称えていました。部活部長会長のO・Rさんの挨拶では、『成功は偶然ではない。選択なんだ。』という言葉を用いて、自分自身がそのプレーを選択して勝利が近づくのは決して偶然ではない、自信を持ってほしいと話してくれました。最近、生徒たちの紡ぎ出す言葉のレベルが高くて、その後に話すわたしの挨拶は、薄っぺらなものになってしまっています。

6月14日（金）商工会議所の青年部の方々が、午後2時からボランティアで、本校の駐車場のライン引き作業を行ってくれました。真っ白なラインを見るたびに、作業やその準備にかけていただいた時間への感謝の気持ちが湧きあがります。地域の方の応援で成り立っている学校です。

■地区中総体前期大会結果

【団体競技】

サッカー優勝（県大会出場）、ソフトテニス男子団体優勝（県大会出場）、ソフトテニス女子団体第3位、軟式野球準優勝、柔道男子団体準優勝、柔道女子団体第3位、卓球男子団体第3位、卓球女子団体準優勝、バスケットボール男子第3位、女子バスケットボール予選惜敗

【個人競技】

柔道女子 44kg級 T・Sさん 第3位 57kg級 T・Yさん 第3位
柔道男子 50kg級 K・Sさん 準優勝（県大会出場） 66kg級 K・Kさん 優勝（県大会出場）
73kg級 K・Rさん 第3位 90kg級 T・Yさん 優勝（県大会出場）
ソフトテニス女子個人 T・M/S・Aペア 第5位
ソフトテニス男子個人 K・S/K・Gペア 第3位（県大会出場） S・M/S・Jペア 第5位
（県大会委出場）代表決定戦勝利 S・R/K・Yペア 第5位
卓球女子個人 G・Sさん 第5位（県大会出場）
卓球男子個人 I・Sさん 第5位

涙を希望に

先日、校長室で、もう成人した教え子二人と話をしました。話の中身は、当時の部活動の話。土日もなく、暑い中1日中、練習をしていた話になります。「でもお昼には涼しい場所で勉強したよね」と、昔の顧問であるわたしが言うと、「え〜？グラウンドを走らせてばかりいました」と笑いながら恨み節を言う教え子たち。大人になっても、中学校時代に打ち込んだ活動は、結果はどうあれ一生の忘れ得ぬ思い出になるんだなあと、あらためて感じました。

そう言えば担任だった時は、地区総体の後、必ずひとり一人に詩を書かせていたなあと思い出して、その日、家に帰って押入れの中から詩集を引っ張り出してながめたのです。

ダブルス
S・I
ボールが落ちたとき
泣けてきた
先生の前に立ったとき
泣けてきた
でも本当に泣けたのは
控え室で二人でいたとき
泣けてきた

無題
I・Y
試合のコールが流れた
県大会出場決定戦
前の試合で負けたから、落ち着かな
い
相手は、団体戦で戦った人
その時 勝ったから 安心して
試合が始まった
いつもと違う
足が動かない
そのまま 試合時間が流れた
負けてしまった
悔しい 涙が止まらない
今まで たくさん練習したのに
結果を出すことができなかった
だけど『勝ちたい』気持ち
は 負けなかったと思う

詩集と一緒に、当時の生徒が毎日つけていた、すっかり茶色に変色した日記も出てきました。その中で思わず目に留まったのは、バレー部の C・Aさんの日記です。

「最後、わたしのミスで負けてしまった。本当に悲しい。」

たしか、トラブル続きのバレー部を最後までまとめようとがんばってきた生徒だったはず。短い感想文の中に最後の失ポイントが自分だったことの後悔の念が表れています。

時に、スポーツは残酷です。あれから20年以上経った今、C・Aさんは、今どこでどんな人生を歩んでいるか思いをめぐらせます。

“バーンアウトシンドローム”という言葉があります。目標を失って無気力になってしまう心理状態です。これを防ぐためには、子どもが出した結果と正直に向き合って、「よし、次はこれでがんばるぞ」と子どもに思わせないといいません。それは、学校と保護者の役目です。

決勝トーナメント T・R
「一本 それまで」
先鋒、次鋒が一本負けてきた
次は俺の出番だ
「はじめ！」
ついに俺の試合が始まった
「一本 それまで！」
負けてしまった
「よくやった」
リーダーがなぐさめてくれた
けっきょく試合は
3対2で負けてしまった
リーダーは泣き崩れてしまった
同時に最後の地区総体がおわった

当時のわたしは C・Aさんの日記の返信にこう書いていました。

「あなたが最後でよかった。あなただから、みんな納得したと思うよ」と。

次の日のページをめくると

「先生ありがとう。涙がでるほど嬉しかったです。」と書いてありました。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。